

Epiphanies

その瞬間

No.12

時代の大転換期に 英国で学んだこと

私が所属するマルチメディア室は、弥生キャンパス、附属施設の情報ネットワーク、コンピュータシステムに関わるさまざまな業務を行っています。その中で私は、データベースやデジタルコンテンツの管理・運用系の仕事を主に担当してきました。私が総合図書館のシステム管理掛から農学部に異動してきたのが1991年ですから、すでに30年近い歳月が流れましたが、この間忘れられないのが1995年という年です。

1月の阪神・淡路大震災と3月の地下鉄サリン事件をご記憶の方も多いと思います。この年、私は文部省（現文部科学省）の在外研究員として英国のウェールズ大学に半年間滞在していました。インターネットを使った情報サービスを学ぶのが目的でした。英国に発ったのはサリン事件の直後、日本が騒然としている時期で、サリン事件のその後が気になりましたが、英国の新聞にそれを伝える記事は少なく、友人や知人との電子メールで情報を得るのが精一杯。それも大学のパソコンが英語版Windows3.1で、日本語が使えなかったため、ローマ字で書いた日本語メールのやり取りで情報を入手していました。



英国滞在中に知り合ったアジア・アフリカからの留学生たちと



マルチメディア室

増田 元助教
Hajime Masuda

Windows 95が発売され、インターネットの普及に拍車がかかったのがこの年の11月。朝日新聞のウェブサイトが同じ年の8月に開設され、話題になりました。しかしGoogleが誕生するのはその3年後のこと。1995年は情報化時代の大きな転換期でした。そのような時期に英国で最先端のインターネット上の情報サービスについて学ぶことができたのはたいへん幸運だったと思っています。

帰国後は、学内LAN経由で農学生命科学系のデータベースを検索できるようにすることに真っ先に取り組みました。新たに導入したSunのワークステーション上で「Biological Abstracts」と「AGRICOLA」という二つのデータベースを公開し、翌年にはオランダElsevier社の協力も得て、学術雑誌59誌の本文のネットワーク経由での提供を開始することができました。他大学に先駆けて行われたこうした取り組みが海外でも紹介されたのは、懐かしい思い出です。



海外で紹介された農学生命科学図書館の電子ジャーナルシステム